

Heartful Day

北条高校人権委員会
平成30年5月9日
No.120

* DVについて考えよう *

DV（ドメスティック・バイオレンス）とは、「親密な関係にあるパートナーからの暴力」のことを言います。

「暴力」と聞くと、「殴る」「蹴る」といった身体的な暴力をイメージする人が多いかも知れませんが、身体的に受ける暴力以外にも、次のような様々な暴力があります。

身体的暴力	つねる、物を投げる。物に当たる。殴る、蹴る。
精神的暴力	大声で怒鳴る、無視する。メール等を勝手にチェックする。
性的暴力	異常に嫉妬心を抱く。キスや性行為の強要。
経済的暴力	経済的な自由を許さず、お金を使わせない。
社会的隔離	交友関係を厳しくチェックし、制限する。親兄弟からの隔離。



この中でも、「物を投げる」「物に当たる」「大声で怒鳴る」「無視する」「異常に嫉妬心を抱く」「交友関係をチェックし、制限する」などは、加害者側に「暴力である」という自覚がない場合が多く、「愛情」だと勘違いしている人もいます。

* デートDVとは *

「交際相手からの暴力」を、「デートDV」と言います。

3年前に北条高校で実施したアンケートでは、北条高校生の13人に1人が「デートDVを受けたことがある」と回答しました。

北条高校生が経験した「デートDV」の例

- ・「友達と仲良くしている」と責められた。
- ・「メールをすぐに返信しない」と怒られた。
- ・「バカ」「ブス」「デブ」等と言われた。
- ・キスや性行為を強要された。
- ・相手の機嫌を損ねることを恐れ、相手の要求を受け入れた。
- ・携帯電話の履歴をチェックされた。

* 被害者になったら *

デートDVを受けた人の中には、「交際相手が好きだから」「自分にも悪いところがあるから」「自分さえ我慢すれば良い」……と考えて、DVを容認してしまう人がいます。しかし、最初は小さな束縛でも、それが次第にエスカレートして、ストーカー行為や暴力に繋がる可能性があります。

一人で悩まないで、保護者や、先生や、専門の相談機関に相談しましょう。我慢してはいけません。



* 周りの人にできること *

I. DV被害者の話を聞く



被害を受けると「これは私たちの個人的な問題だから」「言っても信じてもらえないかも」「恥ずかしい」などと考えて、被害に遭っていることを話せない人がいます。

打ち明けられた時や、「もしかしてDVでは？」と気付いた時には、被害者の話をよく聞き、被害者を孤立させないようにしましょう。

II. 被害者を絶対に非難しない

被害者がどんなに加害者の機嫌を損なわないように努力しても、加害者は別の問題を見付けて、被害者を非難します。

被害者は、悪くありません。DVは被害者のせいではないのです。

* DVを防ぐためには *

暴力は絶対に許されない行為です。どんな事情があったとしても、暴力を振るっていいという理由にはなりません。暴力を使わずに解決できる方法を見付けましょう。

そして、被害を未然に防ぐ為には、正しい知識を身に付け、対等な関係を築くことが大切です。

自分の気持ちを大切に、自分が嫌なことは、はっきりと「**NO!**」と言える人間関係を築きましょう。

また、相手の「**NO!**」を受け入れることも必要です。

相手の気持ちを大切に、自分との違いを認め合ひましょう。

